

TAZMO®

証券コード:6266

Technology for People's Future

第41期 年次報告書

2012年 1月 1日～
2012年12月31日

多額な赤字計上・無配を深く反省 開発装置の量産化を加速し 新中期経営計画を必達

- アプリシアテクノロジーとの協業
- ベトナム新工場による原価低減
- 新規分野の開発加速



代表取締役社長

池田 俊夫

求められる最先端を 「人」の視点から創造する。

人としての優しさと卓越した創造力を
基本に、あくなき「挑戦」によって、
豊かな未来社会の創造に貢献する——
これがタツモの経営理念です。
開発型企業として、タツモは常に「人」に
役立つ最先端を追求しています。

第41期の総括をお願いいたします。

業績及び事業報告

環境が悪化して迎えた半導体関連業界の2012年は、後半に回復を見込んでいましたが、設備投資ストップの状態が続き、年末の円安でやっと動き出したという状態です。売上高が前期比で42%減少し、開発装置のコストが嵩み、会計上においては仕掛品の減損処理、回収が長期化した売掛金の貸倒引当金引き当て、繰延税金資産の取り崩しがあり、多額な赤字計上となりました。

アプリシアテクノロジー株式会社を子会社化

洗浄装置の営業を強化し 更なる発展を目指す

2013年1月、事業拡大の施策としてアプリシアテクノロジー株式会社を株式取得により子会社化いたしました。

アプリシアテクノロジー株式会社は、半導体製造向けの枚葉式洗浄装置、バッチ式浸漬洗浄装置、リン酸再生・循環関連装置及びそのプロセス技術の研究開発、製造、販売を行っており、優秀な技術者を多数擁しております。また、岡山市にあります岡山技術センターには、クラス10のプロセスラボ用クリーン

ルームがあり、お客様向けデモンストレーション及び各種試験（検証・開発）を、実際の装置使用環境により近い環境で行うことができます。

タツモグループがアプリシアテクノロジー株式会社を子会社化することで、洗浄装置関連の営業強化や洗浄・エッチングに関するノウハウの蓄積が図れるとともに、当社が開発中の300mmウェーハ対応枚葉洗浄装置の開発を加速させ、タツモグループの更なる発展を目指してまいります。



● 会社概要

社 名 アプリシアテクノロジー株式会社
本 店 所 在 地 東京都中野区本町一丁目32番2号
ハーモニータワー 22階
事 業 内 容 半導体製造装置及びそのプロセス技術の研究開発、製造、販売
従 業 員 数 80名(2013年1月現在 連結)

営業所及び工場 岡山技術センター
四日市サポートセンター
子 会 社 アプリシア製造株式会社
亞普恩科技股份有限公司
阿普理夏电子科技(上海)有限公司

岡山技術センター

スラリー混合・供給システム ISIS™ 1200 J



CMPプロセスで使用される各種スラリーの希釈・混合及び供給を行うシステム。キャビネットが2分割されており、それぞれに混合部と供給部を持つことで、リダンダンシー供給を可能にします。

枚葉式洗浄・エッチングシステム CENOTE®



チャンバーのユニット化による雰囲気独立制御、及び薬液の種類、混合比率、流量、温度を正確にコントロールすることにより高清浄度の枚葉洗浄、精密エッチングを実現します。

ミニバッチタイプ枚葉式 ALD成膜システム QXP8300



従来の枚葉式の拡張版としてスループットを高めたミニバッチタイプの米アイストロンインク社製ALD装置。最新の反応室により従来機に比較し成膜速度を大幅に向上させ、独自開発の気化器により気化効率を大幅改善するとともに、気化の難しい低蒸気圧原料にも幅広く対応します。

連続式リン酸再生・エッチング制御システム NISON® VESPER



ウエットベンチとの組み合わせにより窒化膜と酸化膜のエッチング選択比の制御が可能。さらにリン酸を再生できるので、装置のダウンタイムと廃液の削減を同時に実現します。

バッチ式浸漬洗浄・エッチングシステム TIGRIS®



200mm/300mmウェーハ対応の浸漬式のバッチシステム。各種モニタによるプロセス管理で、高品質洗浄・エッチングプロセスを実現します。

検査室



ウェーハ異物検査装置、膜厚測定装置等、高水準の検査・分析装置を多数導入。装置の評価や、プロセスの開発・検証が社内にて実施可能です。

クリーンルーム(C10)



センター内には約500㎡のクラス10、約220㎡のクラス1000のクリーンルーム及び各種デモ装置を備えており、日々プロセス開発や装置のデモンストレーションが行われています。

エッチング(etching):化学反応などを利用した表面加工の技法。半導体製造工程において膜を形状加工する(削る)技術に应用されている。化学薬品の水溶液の化学反応によるウエットエッチングと、ガスを用いるドライエッチングの2種の方法がある。

2012年度 連結業績

当社グループを取りまく事業環境は、液晶業界におきましては、液晶テレビの普及が急速に進んだため、製造ラインもほぼ飽和状態となっており、設備投資も予想以上に減少してしまいました。半導体業界においては、スマートフォンなどの最終製品は好調でありましたが、半導体メーカーが設備投資を行うまでにはいたりませんでした。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は5,838百万円（前期比42.6%減）、営業損失1,137百万円（前期は営業損失4百万円）、経常損失1,062百万円（前期は経常損失27百万円）、当期純損失1,183百万円（前期は純損失328百万円）となりました。

2012年度 連結業績

	2012年度 連結会計年度 自 2012年 1月 1日 至 2012年12月31日	ご参考	
		前連結会計年度 自 2011年 1月 1日 至 2011年12月31日	対前期 増減率
売上高	5,838 百万円	10,163 百万円	42.6%減
営業損失(△)	△1,137 百万円	△4 百万円	－
経常損失(△)	△1,062 百万円	△27 百万円	－
当期純損失(△)	△1,183 百万円	△328 百万円	－

セグメント別概況

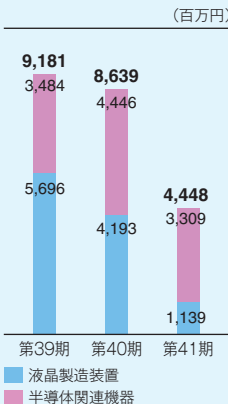
プロセス機器事業

● 液晶製造装置

液晶製造装置につきましては、液晶テレビ市場が成熟化してきたことにより、新規装置の受注・売上は激減し、当連結会計年度の売上高は1,139百万円となりました。

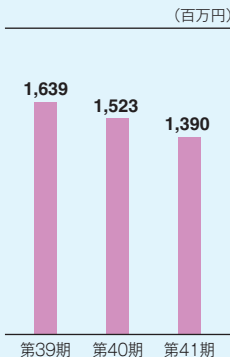
● 半導体関連機器

半導体関連機器につきましては、受注状況は厳しい状態で推移し、当連結会計年度の売上高は3,309百万円となりました。



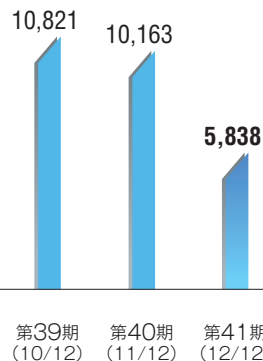
金型・樹脂成形事業

金型・樹脂成形事業につきましては、デジタル家電向けなどの需要はありましたが、価格・納期ともに厳しい状態が続いており、当連結会計年度の売上高は1,390百万円となりました。

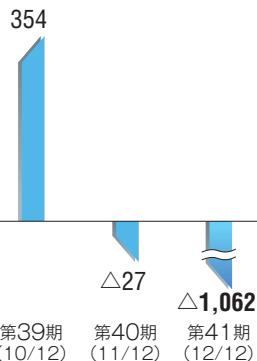




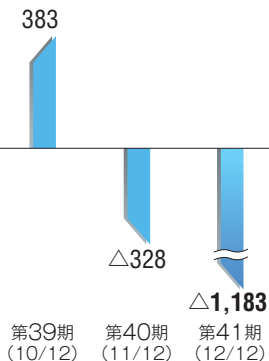
売上高(単位:百万円)



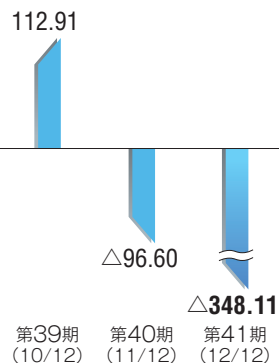
経常損益(単位:百万円)



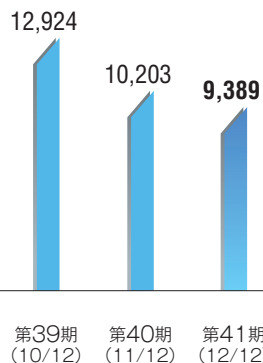
当期純損益(単位:百万円)



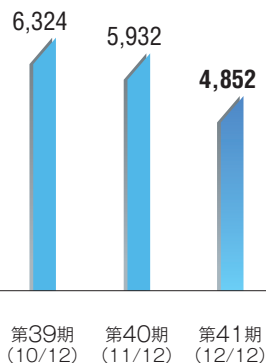
1株当たり当期純損益(単位:円)



総資産(単位:百万円)



純資産(単位:百万円)



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度末 (平成23年12月31日現在)	当連結会計年度末 (平成24年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	6,575	5,490
固定資産	3,628	3,899
資産合計	10,203	9,389
負債の部		
流動負債	3,387	3,641
固定負債	883	895
負債合計	4,270	4,536
純資産の部		
株主資本	6,039	4,845
資本金	1,395	1,395
資本剰余金	1,909	1,909
利益剰余金	2,735	1,541
自己株式	△ 0	△ 0
その他の包括利益累計額	△ 115	△ 16
その他有価証券評価差額金	△ 7	1
為替換算調整勘定	△ 107	△ 17
新株予約権	8	23
純資産合計	5,932	4,852
負債及び純資産合計	10,203	9,389

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
売上高	10,163	5,838
売上原価	8,400	5,294
売上総利益	1,763	544
販売費及び一般管理費	1,767	1,682
営業損失(△)	△ 4	△ 1,137
営業外収益	24	112
営業外費用	47	37
経常損失(△)	△ 27	△ 1,062
特別利益	0	1
特別損失	12	—
税金等調整前当期純損失(△)	△ 39	△ 1,061
法人税、住民税及び事業税	16	10
法人税等調整額	272	111
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△ 328	△ 1,183
当期純損失(△)	△ 328	△ 1,183

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。



貸借対照表

(単位: 百万円)

科目	前事業年度末 (平成23年12月31日現在)	当事業年度末 (平成24年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	5,992	4,682
固定資産	3,716	4,409
資産合計	9,708	9,091
負債の部		
流動負債	2,967	3,543
固定負債	847	856
負債合計	3,814	4,400
純資産の部		
株主資本	5,892	4,666
資本金	1,395	1,395
資本剰余金	1,909	1,909
利益剰余金	2,588	1,362
自己株式	△ 0	△ 0
評価・換算差額等	△ 7	1
その他有価証券評価差額金	△ 7	1
新株予約権	8	23
純資産合計	5,893	4,691
負債及び純資産合計	9,708	9,091

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位: 百万円)

科目	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
売上高	9,735	5,174
売上原価	8,267	4,909
売上総利益	1,467	265
販売費及び一般管理費	1,458	1,384
営業利益又は営業損失(△)	8	△ 1,119
営業外収益	95	138
営業外費用	61	80
経常利益又は経常損失(△)	42	△ 1,061
特別利益	0	1
特別損失	11	40
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)	31	△ 1,100
法人税、住民税及び事業税	3	2
法人税等調整額	274	112
当期純損失(△)	△ 246	△ 1,215

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (2012年12月31日現在)

株式の総数

発行可能株式総数 13,600,000株
発行済株式の総数 3,400,000株

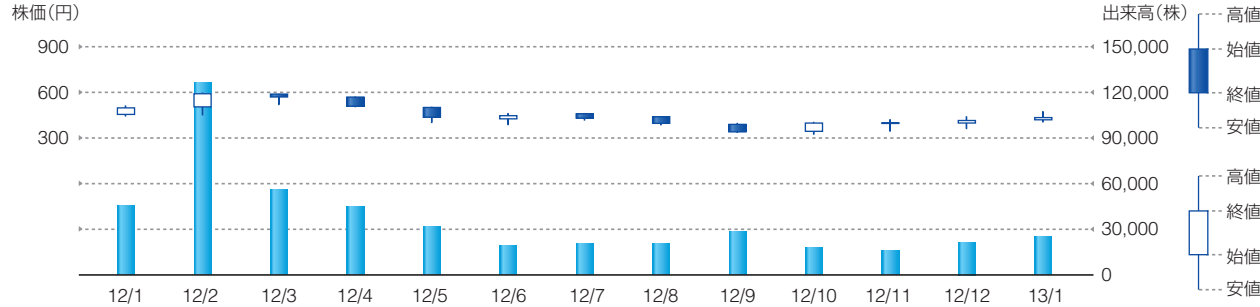
株主数 2,169名

大株主(上位12名)

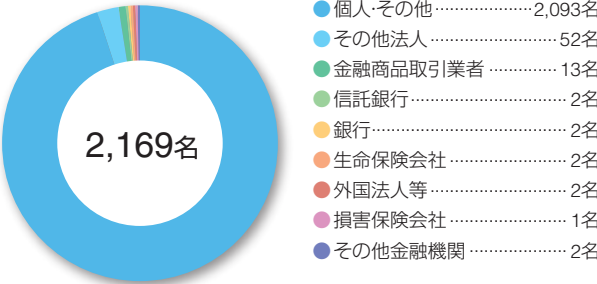
株主名	持株数	持株比率
株式会社大江屋	745,000 株	21.91 %
東京応化工業株式会社	360,000	10.58
タツモ従業員持株会	209,400	6.15
中銀リース株式会社	101,500	2.98
鳥越 琢史	85,000	2.50
株式会社中国銀行	74,500	2.19
鳥越 紀男	70,000	2.05
株式会社石井表記	68,200	2.00
株式会社ニコウトラベル	67,800	1.99
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	60,000	1.76
中銀カード株式会社	60,000	1.76
中銀保証株式会社	60,000	1.76

(注)持株比率は自己株式数(416株)を控除して算出しております。

株価チャート

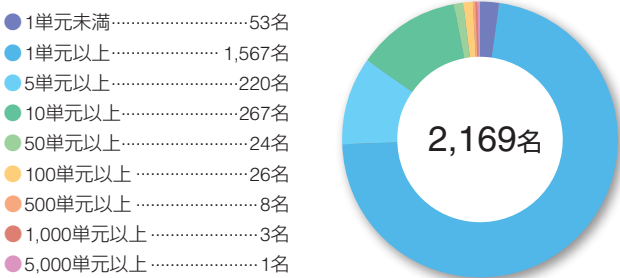


所有者別株主分布



※自己株式は個人・その他に含めて記載しております。

所有単元数別株主分布



※自己株式416株は1単元以上に含めて記載しております。



会社概要 (2012年12月31日現在)

商 号 タツモ株式会社
 本 社 所 在 地 〒715-8603
 岡山県井原市木之子町6186番地
 設 立 1972年2月
 資 本 金 1,395,240千円
 事 業 内 容 半導体製造装置、搬送ロボット、
 液晶製造装置、精密金型及び樹脂成形品、
 プリント基板検査装置などの開発・製造・販売
 従 業 員 数 335名(連結621名)
 営業所・工場及び支店 第二工場 第三工場 第五工場
 横浜営業所・台湾支店
 子 会 社 プレテック株式会社
 TAZMO INC.(米国)
 上海龍雲精密機械有限公司(中国)
 大連龍雲電子部件有限公司(中国)
 TAZMO VIETNAM CO.,LTD.(ベトナム)
 TAZMO KOREA CO.,LTD.(韓国)

主 要 取 引 銀 行 株式会社中国銀行
 株式会社三菱東京UFJ銀行
 取締役及び監査役
 (2013年3月27日現在)
 代表取締役会長 鳥 越 俊 男
 代表取締役社長 池 田 俊 夫
 常 務 取 締 役 福 井 啓
 取 締 役 亀 山 重 夫
 取 締 役 山 邊 浩
 取 締 役 藤 原 壽 太 郎
 常 勤 監 査 役 山 本 正 治
 監 査 役 瀧 本 博
 監 査 役 佐 々 木 健
 監 査 役 大 山 邦 雄

ホームページのご案内

IR情報を当社のホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。

<http://www.tazmo.co.jp/>



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (〒541-8502) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 ●お問い合わせ先 0120-094-777(フリーダイヤル) ●各種お手続き用紙のご請求 0120-684-479(フリーダイヤル) 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行のインターネットでも24時間承っております。 http://www.tr.mufg.jp/daikou/
公告掲載新聞	日本経済新聞

[手続き書類のご請求方法]

- | | |
|-------------------|---|
| ○音声自動応答電話によるご請求 | 0120-684-479(フリーダイヤル) |
| ○インターネットによるダウンロード | http://www.tr.mufg.jp/daikou/ |

タツモ株式会社

〒715-8603 岡山県井原市木之子町6186番地